

会議名	令和元年度第3回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和元年11月25日（月） 午後1時00分～午後2時40分
開催場所	香川県広域水道企業団坂出事務所 3階大会議室
出席委員	長谷川 修一, 國時 忠能, 木原 光治, 新田 一也, 中橋 恵美子, 林 美模, 古田 桂子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

2. 議題

(1) 坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）の素案について

●会長

それでは、議題（1）について、事務局より説明願いたい。はじめに素案の基本目標1までを説明してもらう中で、配布資料の内容についても説明をお願いします。

●事務局

（資料1，資料2により説明）

●会長

資料1および2について、ご質問等があれば発言をお願いします。

資料1について、県外に進学するのが卒業生のうち43パーセントということで、このうちどれくらいの学生が戻ってくるかということ、そして県内に進学した学生がどのくらい地元に残るか、それが重要である。進学の時、就職の時にその年代の人口が減るというプロセスだろうと思う。それに対してどう有効な対策を行うか、それが総合戦略として大事なのではないか。

●会長

続いて、坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案の説明をお願いします。

●事務局

（「坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）素案」により説明）

●会長

ただいま説明のあった、基本目標1までについてご意見いただきたい。

●委員

令和2年度から5年間の計画となるため、今後、パブリックコメントを募ったときに市民の皆さんがどんなことを考えるかという、坂出の未来を考えるという意味では、市民ホールの今後の方向性や、人が集まる場所の確保、旧市立病院の跡地の利用法等が、ある意味でブラックボックス化していて、市民にとって非常に気になっていることである。具体的には書けないとしても、例えば今後の活用法について市民と一緒に考えていく、など、キーワードとしては言及しておかないと、上滑りのような印象を与えるものになってしまうと思う。

丸亀市も、市民会館を建て替えることになっているが、市民へのヒアリングやワークショップを実施していると聞いている。ある日突然、新聞に計画が大きく掲載されて、いつのまにか、思ってもいなかったものが完成、というようなことにならないように、市民の皆で考えます、等、そういった言葉を入れて欲しい。

また、坂出市独自の言い回しである「共働」や「健幸のまちづくり」等について、用語集や注釈を入れるようにしてもらいたい。その他、「外国人」という表現について、外国にルーツを持つかたという言い回しもある。国籍に関係なく、日本国籍であっても外国にルーツを持つかたで、日本語を習得できていない人もいる。外国人に特定するのか、外国にルーツを持つかたという表現とするか、検討してもらいたい。

また、17ページの「すべての人が活躍できる環境の整備」の中で、具体的な施策の中で、国籍を問わず活躍できる社会の実現として4行書かれているが、それに対応する具体的な事業が出てきていないので、具体的に入れるべきではないか。

●事務局

市民ホール等については、具体的に書き込むことは難しく、ただ、例えば広く意見を聞きながら進めていくことは必要であると考えており、加筆していくことは可能であると考えている。用語集または注釈についても、ご意見のとおり分かりやすい方法で対応する。

また、外国人の関係については、表現や具体的な事業の掲載について検討する。

●委員

前回、調査を行うと話した市内事業所の市内在住者数について、結果が出た。坂出に住んで、坂出市内の工場へ働きに行く人が少ないことが調査で分かってきており、なんとか坂出市内から通えるような住宅供給ができればよいのではないかと。

●事務局

実際に市外に住んでいる人に坂出に住んでもらうということは、現実的には難しいが、今後の取組として、同じような条件であれば坂出市を選択して住んでもらえるように施策を進めているものである。都市計画上の線引きがかつてはあり、住宅を建てにくい状況が長く続いていたが、現在では解消されているため、住宅供給に関する環境は昔からは変わってきている。

●委員

高校生の意見として、某飲食チェーン店が市内にあったらというものがあったが、近隣の市には出店が決まっているとか、あるいは宇多津町では人が増えていて、坂出では減ってきている、そういった状況がある。丸亀も減ってはいるが、駅の近くにいろいろな施設があって、子どもや若い世代が住みたいと思うような要素があるのではないかと。企業も同じだが、行政も含めて、大手に出店してもらえるか分からないが、誘致をする努力も必要だと感じる。

●委員

市内の企業が新しい工場を建設するという話も聞いているが、企業誘致については、相手が来るのを待つのではなく、坂出に建てるとどういうメリットがあるかを行政からアプローチしてやってもらいたい。企業の戦略を支援することが必要だと思う。

また、大手飲食チェーンの話だが、市民、若い人が求めるような店に来てもらえるかと

うかは、基本的には受け入れる側の熱意が重要である。具体的な話が出る前の交渉が大事な場面で、そこで熱意を持って交渉しないといけない。総合戦略に盛り込むこととは別として、強い気持ちを持って、受け入れるというより引っ張っていく熱意を出してほしい。

宇多津から坂出に入ってきて、風景が変わったと思うのは、マンションの数が違う。まちなか中高層共同住宅建設促進事業などを促進していってほしい。

●事務局

現状では、ご指摘のあったまちなか中高層共同住宅建設促進事業を行っており、企業立地促進助成金についても、市内雇用の常用雇用に条件しており、これら施策を活用しながら、また熱意を持って企業誘致も進めてまいりたい。

●委員

坂出緩衝緑地の整備は、具体的にどのようなものか。

●事務局

緩衝緑地の内容については、香川県が管理している土地であり、さぬき浜街道沿いであり、元々は工業地帯と住宅街の間であって、公害対策として設置されているものだが、まちなかのぎわいづくりに活用できないかということで、まだ具体的には決まっていないが、整備していく予定である。

●会長

坂出の魅力発信ということで7ページに具体的な施策があり、また11ページの特徴を生かした地域づくり、12ページの新たな地域資源の発掘とある中で、ぜひサヌカイトのことを入れてほしい。サヌカイトは、讃岐の石である。これを一つの核として、ユネスコ世界ジオパークにチャレンジしたいと考えている。ローカルな価値の中に世界的な価値があるが、まだ知られていない、その原石を宝石にして発信していくということを、書き方はいろいろあると思うが、入れていただきたい。

●事務局

加筆を検討し、次回にお示しする。

●会長

他にありませんか。

ないようですので、続いて、目標2、目標3の説明をお願いします。

●事務局

(「坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)素案」および資料3により説明)

●会長

基本目標2と3、および人口ビジョンの数値の更新について、ご質問、ご意見があれば
お願いします。

●委員

安心して子どもを生み育てられる環境づくりについて、急な困りごとがあっても母親が
安心して子育てできることが大切と考えるが、坂出市内に、一時的な保育の受け入れ先は
何カ所かあって、生後何か月からとか、受け入れられる子どもの月齢も決められているの
か。

●事務局

病気になった子どもについては、病児保育を実施している。一時的な親の急な用事等へ
の対応は、一時預かりを実施しており、まろっ子広場や、3か所の保育所で実施している。

●委員

それらの利用については、登録していないと利用できないのか。急にという場合に対応
はしてもらえるのか。

●事務局

実際には、保育士資格を持った人が看るので、急には対応が難しい。

●委員

子どもを24時間以内で預けるケース以外にも、宿泊付で、ショートステイという形で
子どもを預けられる施設は市内にあるのか。

●事務局

坂出市では、ショートステイを委託している施設が2か所あり、市内に1か所、市外に1か所ある。ただし市外の施設は定員いっぱいに入所している時もあり、いつでも利用できるとは限らない。

●委員

高校生の、大手飲食チェーンがほしいという話があったが、高校生もそうだが、手のかかる子を持つ保護者も、そういった店があれば、落ち着ける時間をそこで過ごすことができるし、そういう店の出店を市内に望む声も少なからず聞く。高校生に限らず、そういう若い子育て世代にも同じような要望があるため、ぜひご検討いただきたい。

●会長

他にありませんか。

23ページの(3) 健幸のまちづくりの推進の中の具体的な施策の中にある、第一層協議体、第二層協議体とあるが、それぞれの意味は。

●事務局

第一層協議体は、坂出ささえまろネットワークと呼ばれる、坂出市全体の話し合いの場であり、第二層協議体は、各地域での話し合いの場所という位置づけである。旧の小学校の校区12地区全体に第二層協議体を作っていこうと考えている。

●会長

基本目標3の、安心して暮らしやすいまちづくりという文言について、昔から使われている言い方ではあるが、今では、いかに町が持続的に発展できるかということが重要と考えるが、そこで(4)に、災害・防災対策の強化と持続可能な地域づくりとあり、例えば災害・防災対策だけが持続可能な地域づくりではなくて、まさに人口減少への対応として、持続可能なまちづくり・地域づくりが必要なのではないかと思う。たとえば基本目標3の文言を、持続可能なまちづくり、あるいは持続可能な地域づくりとしてもいいのでは。

●事務局

前回、骨子案で基本目標1から3までをお示しし、本日の会議の中で、より適切な文言

として、持続可能なまちづくり、というものを柱に据えたらどうかというご意見があったということで、事務局としては訂正することも可能と考える。

●委員

持続可能な、という言葉はあまり好きな言い方ではなく、もっと分かりやすく、たとえば、ずーっと安心できる、とか、分かりやすい表現にしていただければ。具体的な施策の内容に、持続可能な、という表現は必要と思うが、タイトルとなる部分は、分かりやすい言い方についても考えてもらいたい。

●会長

持続可能な、は、英語のサステナブル (Sustainable) を訳したものだが、永続的な、と訳す場合と持続可能なと訳すときの2通りあるが、今のご意見だと、ずーっと安心して暮らせるまちづくりとか、末永くとか、そういう言葉がサステナブルに対応すると思われるが、他のかたはどうでしょうか。
女性の感覚としてどうですか。

●委員

ずーっと、という表現は、とても心に響く、坂出市で、ここで生活しようという、安心につながる文言だと思う。

●会長

では、持続可能なという意味を込めて、ずーっと、という言葉を入れましょうか。
何か、その文言を使った良い言い方はないでしょうか。

●事務局

内部でも協議し、次回改めて表現について提示させていただく。

●会長

他にありませんか。

●委員

子育ての関連の窓口は、保健の関係や、学校については教育委員会とか、いろいろ分かれているように思うが、乳幼児を持つ、あるいは児童・生徒を持つ家庭のお母さんが来て、窓口はあちらへ行ってください、そちらへ行ってくださいとなっていると思うが、実際にはどうなっているのか。

●事務局

妊娠期から出産期はけんこう課、少し上の、保育所や就学前は主にはこども課、就学期になると教育委員会と、概ねそういった分掌になっている。ただ、今年度の4月からは、幼稚園の所管課がこども課になるなど、少しずつではあるが、一元化とまでは言えないが、以前よりは分かりやすくなってきている。

●委員

いろいろな支援策や補助を拡充すればするほど複雑になって、相談者にとって分かりにくくなることだけは避けていただきたい。昨今では、子育てソムリエとか、この人に聞けば子育てについてはすべて教えてくれるような、子育ては今重要な役割となっているので、役所に来て困っている人が、一カ所の部署ですべて相談に乗ってもらえるような体制を、並行して考えてもらいたい。

●会長

ただいまのご意見は、要望ということで、今後検討してもらいたい。
他に、ありませんか。

●委員

災害・防災対策の強化を入れているが、16ページに、交流の里 おうごしの宿泊者数の増加を目標として入れているが、王越の道路の復旧はいつごろになるのか。この目標を見た人から見たら、復旧の結果として利用も増えるように思われるが、見通しは。

●事務局

道路の復旧について、該当の道は県道になっており、県に相談したところ、現在、ほぼ復旧しており通れる状態にはなっている。一方、高松市との境の、木沢地区については大

規模な被害であり、もう少し時間がかかる見通しである。

●会長

他にありませんか。

本日出た意見を踏まえて、総合戦略第2期素案の修正をお願いします。

●事務局

いただいた意見を踏まえて修正し、第4回の推進会議で提示する。会議の日程については、机上に配布している日程確認表では12月中にとしているが、日程が合わない場合には年明けでの開催を予定している。

●会長

以上で、第3回の坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了する。